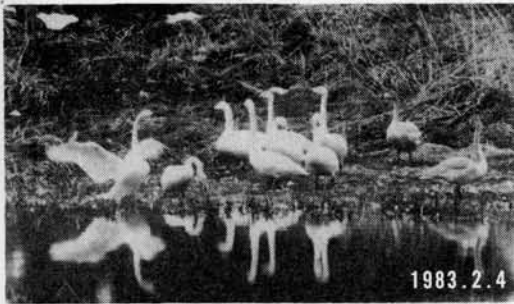


トビックス

■ やってきたオオハクチョウ



小杉町との境の富山市山本にある田尻池に今年度もオオハクチョウがやってきました。富山県内で毎年定期的にやってくるのは、この田尻池だけです。ここでは昭和46年以来、毎年10羽ほどやってきます。それ以前は富山市栃谷の大沢池に多い時は34羽も見られましたが、池がほ場整備のため埋め立てられ、オオハクチョウの飛来地が大沢池から田尻池にうつったのです。

第1陣は3羽が昨年の12月16日に、第2陣3羽

が今年の1月5日にやって来ましたが、暖冬のためか、平年より初渡来も遅く、数も多くありません。昨年度は5羽が12月3日に初渡来し、第2陣9羽が1月12日にやってきました。今年の2月3日には15羽にふえ、2月22日現在では過去最高の19羽(成鳥13羽・幼鳥6羽)が観察されています。

(南部)

■ 進野コレクションの寄贈

1月11日、植物研究家の進野久五郎氏(富山市在住)より植物のおし葉標本約1万点の寄贈を受けました。標本は北海道から近畿地方までの各県から採集されており、中でも富山県のもは特に数が多く、標本を見るだけで、県内のどこにどのような植物が生えているかがわかります。科学文化センターでは今後1年がかりで慎重に標本の整理を行い、来年春の館蔵品展で、その一部を紹介する予定です。

(太田)

コーヒー・ブレイクの答 ①いるか②ふぐ③ひとで④なまこ⑤さざえ⑥いか⑦うに⑧えび⑨ほや⑩のり⑪あさり⑫しゃこ⑬くらげ⑭ごかい⑮まてがい

「富山市科学文化センター研究報告」が発行されました

朴 木 英 治

富山市科学文化センターでは展示や各種教室の開催などの活動のほか、県内はもとより、広く全国から動植物等の資料を集め、それに基づいて研究活動を行なっています。さらに天文や雪・水に関する調査・研究も行なっています。これらの成果は年1回発行されている研究報告にのせられています。

この報告書は、この「とやまと自然」やリーフレット(今月の話題)と違い、小・中学校や一般の人には配布していませんが、国内や海外

の博物館・研究所・大学などで発行されている研究報告書と交換し、貴重な研究情報を集めるために役立てられています。科学文化センターでどのような研究を行なっているかをお知りになりたい方は1階レファレンス・ルームに研究報告を置いていますので、一度ご覧ください。また、県内の各図書館にも配布していますので、もよりの図書館でもご覧になることができます。

では第5号のタイトルを紹介しましょう。

ゲナガワラジムシ科の分類(英文)

布村 昇: オホーツク海から発見されたオナシグソクムシ科Anuropodidaeの一新種(英文)

南部久男: 富山県大山町・新潟県青海町のサンショウウオの一種(Hynobius. sp.)について(予報)

石坂雅昭・黒田久喜: 富山市の平地積雪断面測定資料報告

長井真隆: 富山市岩瀬古志町のシロバナハマヒルガオ
太田道人: 富山県のウラジロガシ林分布(予報)

根来 尚: 日本産ノヤハナバチ(Ceratina)属の生態
Ⅳ: 青森県における4種の営巣場所

根来 尚: 日本産ツヤハナバチ(Ceratina)属の生態
Ⅴ: C. esakii YASUMATSU et HIRASHIMA
の営巣習性

布村 昇: 日本産隆棲等脚目の研究

I: フナムシ科、ナガワラジムシ科及びヒ